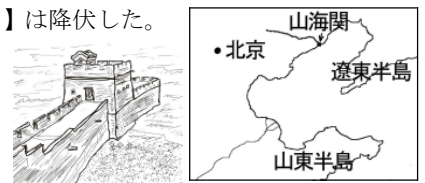


第3代世祖順治帝 位1643-61 の業績 幼少期の摂政はドルゴン (ヌルハチの第14子)。1651年以降は親政。

①1644年、李自成が明を滅ぼすと、長城の東端の**山海関**を守備していた【1: _____】は降伏した。

山海関は、1933年、日中戦争中に攻撃した日本軍でさえ容易には落とせなかった要害。万里の長城の東端は「老龍頭」で海に突出している。

清軍は山海関を通過して華北に入り李自成の反乱軍や明の残存勢力(南明)を打倒し、北京を占拠して首都を盛京(現瀋陽)から北京に遷した。中国を征服した順治帝は名実ともに中華皇帝の地位を継承。**モンゴルハーン(大ハーン)の地位**を第2代太宗ホンタイジから継承した。1659年には雲南を平定し、中国をほぼ統一。



②漢人の男性には【2: _____】べんぱつを強制した。

③言論統制も行った。「**文字の獄**」

④呉三桂 1612-78 中国本土征服に協力した漢人の有力軍人3人を雲南・広東・福建の藩王(はんおう)に任命した(三藩)。
→「三藩の乱」(1673-81 康熙帝の代)

⑤漢人も軍人や官僚に採用した。(「満漢併用政策」)

第4代聖祖康熙帝 位1661-1722 の業績

①藩王の強大化を恐れた康熙帝は、1673年、三藩撤廃を決断した。**呉三桂**(雲南王)は叛旗を翻し呼応者もあって大乱に発展した。これを【3: _____】1673-81という。康熙帝はこれを鎮圧。

②【4: _____】1624-62とその子孫3代が23年間抵抗を続けた台湾の鄭氏を平定(1683)し、翌1684年、海禁を解除し、広州など4カ所に海関(かいかん)を設置した。

鄭成功の父は鄭芝竜で1630年代には東南海岸を支配。06H

明の遺臣鄭成功は、17世紀前半から福建を基盤として、後期倭寇以来の海上勢力と明の残存勢力とを糾合し、1661年、オランダから台湾を奪取して根拠地とし(翌1662没)、長男の鄭経は台湾開発をしつつ清朝と戦い続けた。そもそも歴代中国王朝は台湾を実効支配していなかった。オランダは、1624年、台湾南西部にゼーランディア城 10W を築き行政・貿易の拠点とした。鄭成功が台湾を占拠すると、城は王城として使用された(台湾史上初の漢人政権)。

康熙帝は1661年、沿海部住民を奥地に強制移住させる**遷界令**まで出して本土と台湾の交易を遮断した。鄭氏の財政基盤は南海貿易にあったので、その資金源を断つため、清朝は厳しい海禁を行った。1681年鄭経は没し、1683年に鄭氏を平定した清朝は【5: _____】を領有、1684年に海禁を解除、各地に海関(税関)を開き貿易を順調に回復させた。同1684年、遷界令も廃止した。

鄭成功は明滅亡後も忠節を尽くし、亡命政権から明の皇帝と同じ「朱」の姓を賜ったので「国姓爺」こくせんやと呼ばれた。母は平戸の日本人だったので日本では人気が高く、近松門左衛門作の人形浄瑠璃『国性爺合戦』こくせんやかっせんは1715年、大坂の竹本座で初演、17ヶ月のロングランを記録。後に歌舞伎化された。この作品は基本設定は史実に沿っているが、結末を含め、史実とはかなり異なる。

③南下するロシアと国境紛争が続いていたが、1689年、【6: _____】を締結。ロシアはピョートル1世。
アルグン川とスタノヴォイ山脈(外興安嶺 そとこうあんれい)を清露国境とする。08W

④1688年、外モンゴルの**ハルハ部**は、**ジュンガル部**(オイラトの一部族)の**ガルダン=ハーン 1644-97**の侵攻を避けるため清朝に服属。康熙帝は外モンゴルに遠征。

1696年、親征軍はジュンガル部に大勝。外モンゴル、青海、チベットを平定した。

⑤**盛世滋生人丁を実施** 08W これが地丁銀の前提条件となる。

⑥『康熙字典』『古今圖書集成』の編纂など学問を奨励。

⑦**イエズス会の宣教師以外のキリスト教布教活動を禁止**。08W

第5代世宗雍正帝 位1723-35 の業績

ロシアの南下は19世紀半ばまで阻止されていた。

①**ジュンガル部**征討に際し、【7: _____】※1を設置。10J 内閣に代わる最高権力機関。

※1 厳密には軍機房。1732年に軍機処と改名したのだが、入試では軍機処で大丈夫。2010早(法)リード文

②1727年、ロシアと【8: _____】を締結。外モンゴルでの国境確定。ロシアはピョートル2世。

【6】【8】とも、ロシア帝国と対等の外交交渉による条約。不平等条約には該当しない。

③キリスト教の布教を禁止した。

第6代高宗乾隆帝 位1735-95 の業績

①1757年、外国船の来航を広州1港に限り、公行(コホン、特許商人の組合)に独占させた。公行は南京条約(1842)で廃止。

②1758年、**ジュンガル部**と**回部**を征服08W、「【9: _____】しんきょう」と命名し、藩部に加え、東トルキスタンを併合した。藩部の増大に従い、藩部を管理する【10: _____】りはんいんを独立官庁として整備した。

③『四庫全書』の編纂など学術奨励。反面、弾圧も行う。

④台湾、ヴェトナム、ビルマにも出兵した。

⑤1793年、熱河で【11: _____】(英国使節)を謁見。08W アマーストは嘉慶帝に謁見できず(1816年)。

⑥乾隆帝治下の18世紀後半、清は中華帝国史上最大の版図を獲得、乾隆帝は在位60年に及ぶ堂々たる長期政権を保った。しかし、早くも衰退の兆しあり。

清帝国の広大な版図
└─ 本部(直轄地) 首都圏の直隸省と地方の各省
└─ 藩部 征服・併合されたモンゴル・青海・ジュンガル・回部・チベット……理藩院

☆清朝最盛期の3人の皇帝を覚えよう……**康熙帝** 位1661-1722 **雍正帝** 位1722-35 **乾隆帝** 位1735-95

康熙帝の熙は熙でもよい。これは一見ワープロ特有のウソ字に見えるが、この通りでよい。



左図は清朝時代の中国。北部国境とジュンガル、回部の位置を確認せよ。

《2005年センター試験 第4問のB リード文編集済》

清は中央に理藩院を設け、モンゴルやチベット、青海など、中国本土以外の領域すなわち藩部の間接統治を行った。なかでも、軍事力に秀でたモンゴルを懐柔し制御することについては、特に慎重が期された。例えば、法制面では清律とは別に、モンゴルの習慣や伝統に配慮した法典である「蒙古例」を制定した。その上で、モンゴルの王公たちが独自の法典を設けることも認め、18世紀の前半まではむしろそれが適用された。ところが18世紀の後半以降、「蒙古例」が適用されるようになり、その内容も清律に近づけられた。この背景には、によるジュンガル部攻略の成功や、また、ロシアの進出からモンゴルを保全するために、その「本土化」を図ったことなどが挙げられる。

は乾隆帝（ジュンガル部を滅ぼし、新疆を置いた）
ジュンガル部とは康熙帝・雍正帝と戦い続け、乾隆帝の時に攻略に成功。

清の君主専制体制

- 清の皇帝は多層的存在！①満州人の最高君主、②モンゴルハーン（大ハーン）、③中華帝国皇帝の3つの地位を基本に、④藩部地域に対しては【12: _____】の保護者※、帰順したイスラーム勢力にとっては、⑤イスラームの保護者であった。また、漢人、朝貢国に対しては、儒教を奉じる皇帝。
※ 16世紀以降、中央ユーラシアはパミール高原以東の内陸を覆い尽くす勢いのチベット仏教世界とそれより西方のイスラーム教世界に二分された。オイラト部の一部族、ジュンガルが勢力を拡大し、チベットに迫った時、清はチベット仏教の保護者の座をかけてこれと戦った。乾隆帝は1758年、ジュンガルと回部を征服し滅ぼした。
- 実権は人口のたった2%の満州人が握る！……現実的統治！ 科挙を実施して儒教尊重の姿勢を示す。
満州人による支配を実現するため、明の支配層・統治組織をほぼ継承する。
1729年、雍正帝は軍機処 ※を設置、内閣大学士にかわって最高機関にした。厳密には軍機房。
- 大規模な編纂事業をおこして学者を優遇したが、反満州的な図書を摘発、禁書とし、著者に刑罰を加えた。これを「【13: _____】もんじのごく」と言う。
満州人が支配者であることを厳しい態度で示した。……征服王朝！
例えば、漢人男性に辮髪 を強制した。必ず写真をチェックせよ。格闘系のゲームソフトに登場する中国系のキャラは、なぜかたいてい辮髪。
↑ 禁書、焚書と区別せよ。
- 藩部では、モンゴル王侯やムスリム君主に統治をゆだねる間接統治を行う。例えば、新疆ではウイグル人有力者が、チベットでは黄帽派チベット仏教の指導者【14: _____】が依然として支配者であり、理藩院が管理した。
ただし、西南地方の少数民族、特にミャオ族に対して、改土帰流を行った。11A 元代までの土司・土官による間接統治に代えて、明以降は中央で任命された官吏（流官）を派遣、直接統治に努めた。清では雍正帝の18世紀前半に強化され、激しい抵抗と反乱が起きたが強行された。目的は同化（漢化）である。
- 領域各地に八旗を駐屯させた。中国内地には漢人のみで編成した【15: _____】りよくえいを置き治安維持に当たらせた。これは八旗に次ぐ清朝正規軍で緑旗とも言う。明朝の滅亡に伴い編成された。11W
- 漢人の力を巧みに利用した。中央行政機関の要職には、同じ職務に八旗に属する旗人と漢人を同数配置。
これを【16: _____】まんかんへいようせいと言うが、軍機大臣など特定の要職は旗人が独占した。
漢人官僚は中国内地の統治にしか関与させなかった。民衆支配や徴税には、各県下の【17: _____】きょうしんと呼ばれる漢人地主の力を利用した。
- ヨーロッパも含め外来の文化には概ね寛大であった。
イエズス会宣教師の知識・技術を重用したが、典札問題が起きるとキリスト教布教を禁止した。

清朝と朝鮮・琉球・日本 元 (1271-1368)・明 (1368-1644)・清 (1616-1912)

- 高麗 (918-1392) は元に支配され、後に明の朝貢国となり、その時に豊臣秀吉の侵攻を受け、明の救援を受けた。朝鮮王朝＝李氏朝鮮 (1392-1910) は清の侵攻を受け朝貢国となった。高麗・朝鮮王朝時代を通じて朝鮮の特権階級といえば【18: _____】ヤンバンであり、儒教を奉じる彼らは党争を繰り返して朝鮮王朝衰退の一因となった。中国が征服王朝である清朝に替わると、朝鮮こそ中国文化の正統な継承者だという「小中華」の意識から、両班の間では、中国以上に儒教の儀礼を墨守するようになったとされる。
- 琉球は14世紀後半、明から冊封を受けた。朝貢貿易を頻繁に行くと同時に近隣諸国に明との交易品を売買して巨利を得たが、海禁解除で自由貿易が復活すると衰退。15世紀始め中山王尚氏が統一し、引き続き明に朝貢した。1609年、薩摩の大名【19: _____】氏に討たれて以来、日本と中国に「両属」する状態となり、この状態は清朝になっても変わらず、そのまま幕末を迎える。
- 室町時代、足利義満は、1401年明に遣使、1402年、明から日本国王に封じられ、1404年から【20: _____】が始まったが、16世紀半ばには途絶。その後、明・清との朝貢関係は復活しなかったが、16世紀末からは1635年まで朱印船による貿易が行われた。1639年の鎖国完成以降、対外関係は江戸幕府の厳しい統制下に置かれたが、長崎口（オランダ・清）・対馬口（朝鮮）・薩摩口（琉球）・松前口などを通じて貿易は行われていた。生糸などの国産化が進み、砂糖も徐々に国産化され、当時のわが国は貿易に依存しなくても成り立つ自立的経済構造を持っていた。18世紀末に本居宣長が大成した国学は、儒教道徳、仏教道徳などが人間らしい感情を押し殺すことを批判し、人間のありのままの感情の自然な表現を評価する。